

○ 文化財の概要

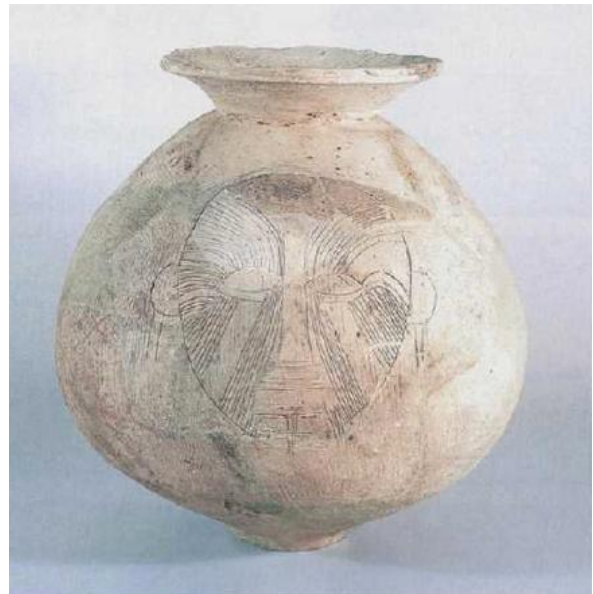
- 1 名 称 じんめんもんつぼがたどき
人面文壺形土器
- せんこくどきへん
附 線刻土器片
- (愛知県安城市亀塚遺跡出土)
- 2 員 数 1 箇
附 20 点
- 3 所 有 者 安城市
- 4 所有者の住所 安城市桜町18番23号
- 5 文化財の所在地 安城市歴史博物館(安城市安城町城堀30)
- 6 時 代 弥生時代
- 7 概 要

本件は、せんこく線刻で人面を描いた弥生時代の壺形土器である。人面は、壺の胴部に細く鋭利な線で大きく描かれ、眼・鼻・口の周囲に幾重もの細線じゅうてんを充填し、また耳には耳飾りと思われる装飾表現もある。細かな破片が接合されて、顔面のほぼ全貌が復元された。

このような土器は「人面文土器」と呼ばれ、弥生時代の祭祀で、辟邪へきじゃ(=魔除け)の思想などを表した特別な土器と考えられているが、その全形を窺い知ることができる例は稀である。また、表現の精緻せいしさにおいて群を抜く優品であり、人面文部分の遺存状態も良く、弥生時代の風俗を物語る貴重な資料である。

人面文壺形土器が出土した亀塚遺跡は、かのりがわ鹿乗川流域の沖積地とへきかい碧海台地上に南北約4キロメートルにわたって展開する鹿乗川流域遺跡群のほぼ中央に位置している。この地域には、国史跡となっている二子古墳ふたご、姫小川古墳ひめおがわを始め弥生時代後期から古墳時代前期にかけての重要な集落遺跡、古墳が密集しており、三河のみならず東海地方を代表する拠点的な遺跡群の一つと目されている。

なお、亀塚遺跡からは、他にもヘラ状工具で文様等を描いた線刻土器片が多数出土しており、人面文壺形土器との関連性を考えるうえで参考となる資料であり、附とされた。



人面文壺形土器(安城市提供)